
京教で染めよう！

第1章 プロジェクトの概要など

1. プロジェクトの名称、目的など

プロジェクト名：京教で染めよう！

目的：京教の自然を手段に染織というアートを知る。

2. 代表者および構成員

・代表者

友田音葉 美術専攻 2回生

・構成員

柳原柚稀 美術専攻 2回生

中嶋華来 美術専攻 2回生

竹内静流 美術専攻 2回生

内藤優 美術専攻 2回生

後藤美香 美術専攻 2回生

矢田千羽椰 美術専攻 2回生

古谷真理 美術専攻 2回生

3. 助言教員

丹下 裕史（美術）

第2章 内容や実施経過など

1. 全2回のワークショップ

(1) ワークショップ①

化学染料による染色実験

日時 7月1日

場所 D453 美術科共通演習室2

目的 染織未経験者が多いため、比較的簡単に扱いが容易な化学染料を用いて「染める」営みに触れてみる。

方法 9.5mの手ぬぐい地を三分割し、スポット等を用いて自由に染める。

(2) ワークショップ②

キャンパス内の植物を用いた草木染

日時 7月15日

場所 D453 美術科共通演習室2

目的 「植物で染める」ことを経験し、また展覧会に向けて作品の元となる布や糸を染色する。

方法 フウの実(D棟付近に生息)を使用し、絹糸を染める。

2. 作品制作

任意の糸又は布をキャンパス内の植物を用いた草木染で染め、それを用いた作品を制作する。

3. 学内・学外展覧会の実施

(1) 学内展示

日時 11月7日(木)～11月13日(水)

場所 京都教育大学附属図書館

北館一階 企画展示室

目的 個人で制作した作品を展示する。その際にワークショップの様子や成果物等も同時に掲示し、本プロジェクトの全容を報告する。

(2) 学外展示

日時 12月9日(日)～12月12日(木)

場所 GALLERY Ann

目的 京都教育大の e-project の取り組みを発信する。また、ギャラリーを借り運営する経験をする。

第3章 結果や成果など

(1) ワークショップ

○ワークショップ①

構成員が楽しみながら制作に取り組み、どのような流れで染めるのか理解できた。染料と定着剤についての理解を深めることができた。

○ワークショップ②

植物から染める流れを構成員が知ることができた。異なる定着剤を用いることで、同じ植物から染めても仕上がりが変わることを学んだ。

(2) 個人制作

各個人が植物染めと自らの完成を掛け合わせた作品を構想し作品としてワークショップから学んできたことを形にすることができた。限りある時間の中で作品を仕上げることもできた。

(3) 学内展示

展示会の運営の流れを理解することができた。作品の効果的な展示方法を議論し、実行することができた。

(4) 学外展示

構成員全員がギャラリーを借りて運営するという経験が初めての中、話し合いを重ね無事に開催することができ、全員にとって大きな経験となった。

第4章 まとめと反省、今後の展望など

1. 反省

(1) ワークショップ①、②

計画が不十分で全員が平等に経験できなかった。

(2) 個人制作

計画に余裕をもって制作ができず、制作したいものや研究したいことを達成できなかった部分がある。また主な制作場所である D 棟付近の植物を用いた作品が多く、偏りが出た。

(3) 学内・学外展示

告知が不十分であったため、構成員の紹介以外の一般の観覧者が少なかった。また展示場所が奥ま

っていたことや、人目に触れづらかったことも原因と考えられる。

(4) 研究全体

計画性が不十分で書類の提出や展示会の計画等詰めが甘い部分があった。

2. まとめと今後の展望

(1) 染織での作品制作の継続・技術の向上

来年度も継続することで初参加であった今回の成果や反省を踏まえた一人一人の技術、研究自体のクオリティの向上が期待できる。

(2) 教材化

植物から染める活動の教材化が考えられる。染織は化学・生物学・地理等への関連が深く教科横断的な学びができると考えられるため教材研究を行い各教育機関ないしは発達段階に合わせた教材を開発できるのではないかな。

(3) 他領域・外部の方々へのワークショップ

今回構成員向けにワークショップを行ったように初心者の方や地域の方に「染める」という体験をしてもらおうワークショップを開催することによって、染織に親しみを感じてもらい、身近なものでもモノづくりができることを知り日常の少しの彩として取り入れてもらえるような活動を行う。今回の経験を踏まえて運営を行うことで、教員にも必要な能力を鍛えることができるのではないかと考える。